

活動報告 1

■活動日時

2025 年 4 月 20 日 (日) 9:30～15:30

■プログラム名

カブトムシの森 伐倒と材処理・草刈り

■目的

萌芽更新

■活動場所

カブトムシの森 こもれびゾーン（A地区）、せせらぎゾーン（B地区）

■参加者

参加人数 19 名 (植生調査 4 名を含む)



【参加者集合写真】

■活動概要

クヌギ3本（直径 30, 24, 20 cm）とアラカシ1本（直径 21 cm）伐倒、材処理

■活動内容

当日は曇り一時雨の天気で、やや蒸し暑さも感じられましたが、幸いにも作業に支障はなく、予定どおり実施することができました。今回は新年度から参加する新たな会員を迎え、植生調査を含む総勢 19 人での作業となりました。

作業開始前には、まず参加者全員で自己紹介を行い、続いて当日の作業内容や進め方について説明をしました。その後、安全に作業を行うために準備体操を行い、必要な道具を積み込んで「カブトムシの森」へと移動しました。現地に到着してからは、こもれびゾーン（A 地区）にて雨に備えてタープを設営し、その後全員で集合写真を撮影してから、作業に取りかかりました。

現地では作業の安全を確保するため、エリアを 3 つに分割し、それぞれ「伐倒Ⅰ班」「伐倒Ⅱ班」「材処理・草刈り班」の 3 班体制で作業を行いました。

伐倒Ⅰ班は、こもれびゾーンの東側でクヌギの伐倒を担当しました。特に新入会員への技術伝達に力を入れ、伐倒の手順や安全確保の方法を丁寧に説明しながら作業を進めました。伐倒前には「伐倒 5 原則」を確認し、ロープを張って倒木方向の安全を確保。チェーンソーで受口を切った後、追い口は手鋸で切り、クサビを使って計画通りの方向へ安全に伐倒することができました。

伐倒Ⅱ班は、せせらぎゾーン（B 地区）にてクヌギの伐倒を行いましたが、倒木が隣接するアラカシの枝を折ってしまうアクシデントがありました。そのため、倒木対象を変更し、午後からはそのアラカシの伐倒を実施しました。伐倒したクヌギとアラカシの木は、せせらぎを越えて遊歩道をふさいだため、班のメンバーで協力して材を整理し、ヤードへと運びました。また、枝先が折れていた約 4 メートルのクヌギについても、チェーンソーで安全に伐倒しました。

一方、材処理・草刈り班は、こもれびゾーンの西側エリアを中心に作業を行いました。以前に伐倒されたまま残っていたクヌギの処理を進め、材をヤードまで運搬しました。さらに、周囲に生い茂っていたイタドリやササなどの草を刈り取り、エリア全体がすっきりと整備された印象になりました。

本日は、新入会員を多く迎え、久しぶりに 19 名という多くの参加者での作業となりました。活気ある雰囲気の中、作業は伐倒を担当する 2 班、材処理・草刈り班、そして植生調査班の 4 グループに分かれて行われました。

それぞれのリーダーや補助係の方々の的確な対応のおかげで、安全に、そして和やかな雰囲気の中で作業を終えることができ、大変有意義な一日となりました。天候については心配もありましたが、小雨が降る場面はあったものの、作業を中断することなく予定していた内容を遂行することができました。

「こもれびゾーン（A 地区）」のクヌギ・コナラも、残すところあと 7 本となり、いよいよ皆伐が見えてきました。一方で、森の中にはイノシシによる掘り返しの跡が多数見られ、今後は草刈りや遊歩道の整備にも力を入れ、より入りやすく、親しみやすい森づくりを目指していきたいと思います。



【作業前全体ミーティングの様子】



【伐倒Ⅰ班活動の様子】



【伐倒Ⅱ班活動の様子】



【材処理・草刈り班活動の様子】

活動報告 2

■活動日時

2025 年 4 月 12 日 (土) 9:30～15:30(植生調査 11:00～12:20 草刈り＋地かき 13:00～14:30)

■プログラム名

カブトムシの森 植生調査

■目的

カブトムシの森の変化を観察する

■活動場所

カブトムシの森こもれびゾーン（A地区）

■参加者

参加人数 4 名



【植生調査の様子】

■活動概要

こもれびゾーン（A地区）の調査区（10m × 10m）内の林床の草本類の種と優先率の調査

■活動内容

現地到着後、10m×10m の調査区を 4 つの 5m×5m 区画に分けるために杭を 9 本設置し、各区画において蕾・花・果実の付いた植物の種類と被度を調べる調査を行いました。調査は同定担当 3 名、記録担当 1 名の体制で実施され、12 時 20 分ごろに終了しました。

調査区はササや周辺の野草・灌木が繁茂しており、特にⅠ区はイノシシによる掘り返しの影響で確認できた種数が少なくなっていました。全体として確認できた植物種は 14 種で、昨年より 1 種少なく、いずれも少数が点在している状態でした。午後はイノシシによる掘り返し箇所の整地と、ササを中心とした全域の草刈りを実施しました。

また、区域内および周辺ではクヌギの伐採が進み、林床への日差しが増えたことから植物種の増加を期待していましたが、実際には成長の早い強い種が広がり、確認種数はかえって減少しました。一方で、昨年夏の勉強会でご指導いただいたササの刈り取りに加え、落ち葉かきや地かきを実践できたことは大きな成果であり、今後の調査結果に期待が高まります。